

平成28年度 柏崎市刈羽郡保健体育研究部 活動報告

部長 池田 和弘

1 はじめに

柏崎市刈羽郡学校教育研究会は、会員の資質向上及び学校教育の充実発展を図るため、柏崎市教育委員会及び刈羽村教育委員会、柏崎市立教育センター、関係機関等と連携し、特色ある事業を推進することを基本方針としている。保健体育研究部の今年度の部員は、小学校38人・中学校28人・特別支援学校9人・柏崎翔洋中等教育学校2人の計77人で構成している。実技研修と授業研究を柱に、学習指導力の向上を目指し、児童生徒が自発的に運動に親しみ、体力向上につながる学習指導のあり方を研究してきた。

2 研究の概要

(1) 柏崎市立教育センターとの連携による事業

- ①「武道指導技術講習」 11月18日
- ②「性教育研修」 12月13日
- ③「ニュースポーツ研修」 12月21日

(2) 実技研修

- 『「感じる力・考える力・動く力」
を育む体づくり運動』8月10日
講師 見附市立葛巻小学校
教頭 田邊 輝明 氏



ソフトバレーボールを楽しむ児童

(3) 研究部内授業研修

- ①小学校の部 ②中学校の部

小学校の部の研修は、郡市内の小学校を4グループに分け、順番に授業研究を行っている。今年度は、第2グループの代表が以下のような授業を行った。

3 授業研究（小学校の部）

- (1) 単元名 第5学年「ソフトバレーボールを楽しもう」（5/9時間）
- (2) 授業者 柏崎市立枇杷島小学校 教諭 山本 健二
- (3) ねらい 「ナイスプレイカード」や「リアル作戦盤」を手掛かりに、ボールを落とさないための守り方を考え、動きとして表現することができる。

(4) 授業の概要

ボールゲームが楽しいと感じている児童に、「ネット型ゲームの競争目的を視点に学習することで、ゲームに参加するための確かな学びを深めたい」との意図で単元が構想された。タスクゲームやドリル学習を取り扱うのではなく、今持っている技能で参加できるプレイを保障しつつ、児童の気付きや工夫を引き出していくという構えが指導の基本であった。児童は「ナイスプレイカード」や「リアル作戦盤」を使いながら互いの動きを見つめ、ボールをつなぐ楽しさを味わっていたようである。

(5) 授業を終えて

- ①運動経験の少ないソフトバレーボールであるからこそ、今ある技能で楽しめる学習過程を構想・実践したことが児童の意欲的な動きにつながっていた。
- ②「リアル作戦盤」からどのような情報を得て、どのようにプレイに生かすのか。そのためにどのような「リアル作戦盤」が望ましいのか、今後検討が必要である。
- ③ボールを更につなぎ、より楽しさを味わわせるために、技能習得をどのように図っていったらよいのかが課題である。

4 おわりに

体力テストの数値は向上しても、一人一人の児童生徒の実態は様々である。児童生徒が生涯にわたって健康に関心をもち、運動に親しむことができるようにするためには一人一人に達成感や喜びの伴う指導の積み重ねが不可欠である。今後も教師の指導力向上を図り、発達段階に応じた指導を充実させていきたい。